



広報

No. 310

～ 文教のまち西原 ～

にしはら

町の世帯・人口

(平成9年10月末現在)

世帯数	10,153世帯
人口	30,887人
男	15,696人
女	15,191人

10月の人口移動

出生	34件	死亡	11件
転入	110件	転出	107件
婚姻	15件	離婚	4件

編集・発行/ 西原町役場文化広報課(広報係) 西原町字嘉手苅112番地 ☎098(946)9846 印刷/ 沖縄コロニー印刷



△子ども議会で、教育面・環境面について要請した子ども議員たち

今月の主な内容

- 「ごみの5種類分別」で説明会 (2～3頁)
- 憲法・地方自治法施行 児童福祉法制定 50周年記念「西原町子ども議会」(1、4頁)
- 第11回西原まつり (7、8、9頁)
- まちの話題 (6、10、12、13頁)
- お知らせで一びる (14～16頁)

憲法・地方自治法施行 50周年記念事業として
児童福祉法制定

初の「西原町子ども議会」を開催

議会の活動や議員の役割について学び、自分たちと行政の関わりを考える契機にしようと、町立中学校の3年生22人による「西原町子ども議会」が、11月11日、町議会議場で開催されました。

これは、今年が憲法・地方自治法施行・児童福祉法制定50周年にあたることを記念して町と町教育委員会、町議会が主催し、町PTA連合会と西原まちづくり町民の会が後援したもの(関連4頁)。

“ごみの5種類分別”を実施

町クリーン指導員らを対象に 「ごみの五種類分別」で説明会を開催

— 地域説明会も順次開催 —

町(翁長正貞町長)では、十月三十一日午後、町中央公民館で、各自治会でリサイクル運動やごみの出し方などを指導している町クリーン指導員ら約四十人を対象に、「ごみの五種類分別」についての説明会を行いました。



説明会では、保健衛生課職員が「燃えるごみの五十三％は紙類」と、現状を具体的な数字を挙げて説明、参加者に対して理解と協力を求めまし



△各自治会のクリーン指導員らを対象に開かれた「ごみの5種類分別」説明会(10/31、町中央公民館)

た。参加者らは会場で配布されたごみの五種類分別例が書かれたポスターを参考に、「ごみをいれる透明袋は指定のものを購入するのか」(※回答—中身がわかる透明な袋であればよい。しかし従来の黒いごみ袋を使用した場合は回収しません。)、乾電池は啓発ポスターに書かれていないが、どれに分別されるのか(※回答—危険ごみ扱いで、透明袋に「電池」と記入する)など具体的な説明を求めています。

今後、担当課の保健衛生課では、住民説明会を十一月四日の幸地を皮切りに十二月まで全行政区で行い、ポスターなどを全戸に配布し、ごみの五種類分別の徹底を呼びかけます。

本町は、人口増に伴いごみ問題が深刻化してきており、すでにごみの五種類分別を実施して、ごみの減量、資源化に成果をあげている佐敷町、与那原にならない、来年一月五日から、ごみの五種類分別を実施することになりました。

分別方法は、①燃えるごみ(生ごみ、草木など) ②燃えないごみ(ガラス、陶器など) ③危険ごみ(蛍光灯、スプレー缶など) ④粗大ごみ(テレビ、冷蔵庫などの大きな家電品、針金ハンガーなど) ⑤資源ごみ(新聞紙、ちらし、古着などの布類、ペットボトル、瓶など)の五種類。回収日を週四回に増やして対応する予定だが、燃えるごみに、新聞や段ボールなど資源ごみが交じっている場合など、分別がきちんとされていないと回収しない方針。

町役場保健衛生課

〇九八—九四五—五〇—三
「ごみ五種類分別に向けて」
本町では、三年前から毎月第三日曜日を「リサイクルの日」と定め、古紙や瓶、缶などを自治会単位で収集し、リサイクルを進めて来ましたが、古紙のだぶつきなどリサイクル業者を取り巻く環境の変化などの影響もあってか、「全体の一割程度」しか回収できないなど、十分な効果を上げることが出来ませんでした。

減量の抜本的対策として、ごみ収集の有料化を検討していたが、年二千円程度の町民負担が予想される有料化に、「税金の二重取りだ」という町民の反対にあい、現在棚上げ状態にあります。そこで、ごみ五種類分別に先駆け、「まずはできることから」と、今年の十月一日から収集方法をステーション方式から門口収集へと変更しました。

今後は、資源ごみの受け皿として、リサイクルヤードを設け、シルバー人材センターや知的障害者の共同作業所などに回収・分別作業を委託し、また収集車も一台増やして五台で対応を予定しています。

焼却処理施設と最終処分場の寿命を考えた場合、ごみの減量と再資源化は、時代の趨勢



西原町でも来年(平成10年)1月5日から

(※実施に伴い、黒い色のごみ袋は使用できません。)

であり、西原町一地域だけの問題ではありません。

西原町、佐敷町、与那原町で構成する東部清掃組合が作成した、町別の家庭ごみの搬入量をまとめた表をみると、今年四月から五種類分別収集と有料化をスタートさせた佐敷町と五種類分別収集だけをとり入れた与那原町、従来通りの収集を続けて来た本町では、昨年と今年の四・九月間の搬入量を比べてみるとその差が歴然としています。

容器リサイクル法が今年四月一日から施行され、佐敷町と与那原町は五種類分別をスタートさせました。佐敷町では、同時に糸満市、浦添市に次いで県内自治体では三番目となる有料化も実施した結果、四・九月間の昨年同月比で四十・四十八%の大幅減、最大で百三十五トン(八月)の減量に成功しており、六カ月では計六百四十六トンも減少しています。与那原町でも二十・三十二%の減少で、最大で百四十四トン(八月)、六カ月計で五百五十五トン(二十九%)の減量を達成しています。

一方、資源ごみ収集を月一回だけ制定し、あとは不燃可燃で分別していた本町では、逆に三・二十一%の増加で、

ごみの正しい分け方・出し方

町民みんなで、住みよい西原町をつくりましょう。

＝平成10年1月5日より実施＝

① ごみの分け方(5種類分別)

もえるごみ	もえないごみ	危険ごみ	粗大ごみ	資源ごみ(古紙類・びん類・ペットボトル・古布類)
木・草(50cm以内)、生ごみ(水切りはキチッと)、貝殻、紙おむつ、皮革製品、トイ、発泡スチロール ●草木は50cm以内に切り、枯らしてから出すこと。(2束まで) ●生ごみは十分に水切りをすること。 ●生ごみは堆肥化しましょう。 ●紙おむつの汚物はトイレへ。	ナイフ、フォーク、化粧びん、ガラス製品、陶磁器類 ●ペンキの入った空き缶等。 ●ガラス製品で割れていないもの。 ●化粧びん・耐熱ガラス(なべ)。 ●ちゃん類(陶磁器)。 ●金属製食器類・アルミナベ等。	蛍光灯、ライター、割れたガラス、カミソリ、スプレー缶、刃物類、ガスボンベ ●ガスボンベは必ず穴を開けて出す。 ●割れたガラス・刃物類は新聞紙で包み、「きけん」と書くこと。	テレビ・冷蔵庫・洗濯機、扇風機、針金ハンガー、電気コード、ふとん、アイロン ●引越等し等で出る大量ごみは各自で処理すること。 ●オートバイ・バッテリー・タイヤは業者処理か、各自で処理すること。 ●針金を使用したハンガーや電気コード及び掃除機・アイロン等。	新聞、雑誌、古布、チラシ類、ダンボール、ペットボトル、びん、缶類 ※資源化できないもの ■ファックス用紙 ■紙コップ ■油紙 ■写真 ●びん・ペットボトルは、ふたを必ず取ること。(ふたがついているものは回収しません。) ●中を水洗いしてから出すこと。(びん・缶・PET) ●中の異物は必ず取り除くこと。(びん・缶・PET)
半透明袋	透明袋	透明袋	透明袋	透明袋(古紙・古布類は束ねて出すこと)

② ごみの収集区域と収集曜日

収集区域(行政区別)	もえるごみ	もえないごみ 危険・粗大ごみ	資源ごみ
幸地・幸地ハイツ・棚原・徳佐田・森川・千原・上原・坂田・幸地高層住宅	月・木	水	火
翁長・呉屋・安室・桃原・池田・小波津・小波津団地・西原団地・坂田高層住宅	月・木	水	金
津波波・西原台団地・小橋川・内間・内間団地・平園	火・金	土	月
掛保久・嘉手刈・小那覇・兼久	火・金	土	水
与那城・美咲・我謝・西原ハイツ	火・金	土	木

※ごみの収集日を守り、各家庭の門口や決められた場所(アパート等)に朝8時30分までに出しましょう。

③ ごみの収集は、全世帯門口収集

●一戸建て世帯は、各家庭の門口で収集します。 ●団地・アパートの世帯は、敷地内所定の場所で収集します。

④ 資源ごみは、週1回収集 びん類・ペットボトル類はふた、キャップを取って2～3回洗ってから出ししましょう。

古紙類	古布類	びん類	金属類	ペットボトル類
段ボール、古新聞、チラシ類、雑誌 ※用紙類の金具は取り除く ※牛乳パック等は、洗って切り開いてください。それぞれに分別し、ひもで十文字にしつけてください。 ※資源化できないもの ●ファックス用紙(感熱紙) ●写真 ●油紙 ●窓の付いた封筒 ●カーボン紙 ●紙コップなどのファックス加工紙	着古した衣類、タオル・シーツ ※古布類は木綿類と化繊類に分けてひもで十文字でしづめて下さい。	生きびん、カレット(生きびん以外) ※化粧品用びんを除き、すべてリサイクルが可能です。中の異物は取り除いて下さい。割れびん・板ガラスは危険ごみへ。	アルミ缶、スチール缶、缶詰の缶(スチール缶) ※中の異物は取り除いてください。	 リサイクルできるPETボトルのラベル部分や底には、このマークが入ります。 リサイクルできるPETボトルの種類再資源化法で材質表示指定を受けているもの ★飲料用 ★酒類用 ★しょうゆ用 《注意》しょうゆ以外の調味料(ソースなど)、食用油用、非食品用(洗剤、シャンプー、化粧品、医薬品など)のボトルはリサイクルの対象外です。

※資源ごみは、それぞれ分別してから出ししましょう。 ※古紙類・古布類の場合、雨天時は収集できませんので次回に出して下さい。

マナーを守りましょう

- ごみは、収集日の朝8時30分までに「門口」に出すこと。
※尚、団地・アパート等にお住まいの方は決められた場所に出して下さい。
- ごみは、収集日以外には絶対に出さないこと。
- ごみは、ちゃんと分別してから出すこと。
- ごみの不法投棄は絶対にしないこと。

町が収集しないごみ

- 店舗、会社、事業所、建築業などの事業活動によって生じた事業ごみ。
- 新築、増築、改築などによって生じたごみ(請け負った業者に処理させるなど)。
- 引越しごみ、畳、日曜大工などによって生じた一時多量ごみ。
- 法律に定める産業廃棄物(建築廃材、コンクリート破片、ガスボンベなど)。
- ※以上のごみは、業者に引き取ってもらして下さい。

ごみ収集が休みの日について

- もえるごみ、もえないごみ、危険ごみ、粗大ごみの収集が休みの日
★年始(1月1日～3日まで) ★この日の(5月5日) ★勤労感謝の日(11月23日)
- 資源ごみの収集日が休みの日
★年末・年始(12月29日～1月3日まで) ★祝祭日及び振替休日

※町では処分できません。
車・バイクの部品、バンパー、ドア、タイヤ、バッテリー、土、砂等、ブロックのかけら、ピアノーこのような廃棄物は、下記の業者に引き取ってもらして下さい。有償で処理する産業廃棄物処理業者です。

リサイクル 心豊かなあなたが主役

◆分別されていないごみは収集しません。

ごみについての連絡先 西原町役場・保健衛生課 ☎945-5013

■丸兼商会 西原町字小那覇1227番地 ☎946-4942

最大百六十トン(九月)、六カ月計で三百四十五トン(十%)も増加、佐敷町と与那原町がこの半年で計約一千二百トンも減少させたのに、本町が三百四十五トン増やして、

東部清掃組合全体の搬入量の約半分を占めており、影響は大きいといえます。本町は、佐敷町と与那原町二町に比べ人口が多いのも事実ですが、先行する二町のように、収集

の有料化と行政のシステムづくり、リサイクルというごみ減量の動機づけが大切であり、雇用面や環境保護などメリツトを考えれば、それだけ価値のあることだと思います。

憲法・地方自治法施行／児童福祉法制定50周年記念

子ども議員が、教育面・ 環境面で行政に要請

外灯設置から図書館建設、通学区まで
幅広い行政の問題を取りあげる

—「西原町子ども議会」を開催—

議会の活動や議員の役割について学び、自分たちと行政の関わりを考える契機にしよ
うと、町立中学校の三年生二十二人による「西原町子ども議会」が、十一月十一日、町
議会議場で開催されました。

これは、今年が憲法・地方自治法施行・児童福祉法制定五十周年にあたることを記念
して町と町教育委員会、町議会が主催し、町PTA連合会と西原まちづくり町民の会が
後援したもの。



△幅広い行政の問題を取りあげた「西原町子ども議会」(11/11、町議会議場)

西原中学校と西原東中学校

から三年生男子九人、女子十
三人が議員として議場入りし、
議長に玉城梅納さん(西原東
中)を選出、議事運営から議
長・各議員の言い回しまで、
本物の議会同様に本格的に進
められました。

通学路など外灯のない道が
多いことを指摘し、部活動帰
りの不安を訴える議員や翁長

町長の選挙公約でもあった町
立図書館の早期建設について
質問する議員もいました。ま
た、「首里高校や那覇国際高
校はバスで乗り換えもなく行
けるのに、通学区でないので
進学できない。区域拡大を」

と要請する議員や「夏の暑い
とき、近くの養豚場の臭いが
きつく、窓を開けられない。
悪臭対策としてクーラーの設
置をしてほしい」と要望する
議員も。

そのほか、マリン・タウン・
プロジェクト推進の工事に伴
う環境問題や町民体育館のト
レーニング施設の利用制限の
見直しなど、中学生らしい視
点に立って、教育・環境面を
中心に、行政の問題を幅広く
追求しました。

町側も、町長以下三役をは
じめ、全課長が出席、通常の
議会同様、丁寧に答弁しまし
た。

議会後、参加した子ども議
員たちは、「とても緊張した」
「いすがふわふわで、気持ち
いい」などと、それぞれ初め
ての議会体験の感想を話して
いました。

今後、町議会事務局では、
子ども議員たちの意見を、将
来の町政運営と文教のまちづ
くりを生かすべく、この子ど
も議会の模様を記録した会議
録を発刊する予定です。

町産業通り会が設立十五周年を迎え 記念式典・祝賀会を盛大に開催

西原町産業通り会(新川凌市会長)は、今年設立十五周年を迎えたことから、十一月十三日午後、かねひで都パレスタイヤモンドホールで、記念式典と祝賀会を開催し、同通り会会員や関係者約八百人が参加しました。

西原町内には、現在通り会が四つあり、産業通り会は昭和五十八年一月二十日に、坂田通り会に次いで二番目に結成されました。当該地域は、工業専用地域がその大部分を占め、その指定は県内でも比較的早く、昭和四十九年八月の市街化区域の用途地域区分に基づき七十四ヘクタール、

さらに昭和五十八年四月には七十五・一ヘクタールが追加され、現在百四十九・一ヘクタールの規模を誇っています。戦前戦後を通してサトウキビ作を中心とする純農村として栄えてきた本町ですが、地の利に恵まれたこともあって、復帰後、国立琉球大学の移転や住宅団地の形成、各種事業所の進出等、急速に都市化し、産業構造も大きく変化してきています。現在、百五十余の企業で構成される同通り会は、工業集積率・工業出荷額において県内有数の実績を誇り「工業のまち」としての顔も持つ本町の中核になっています。

▷設立十五周年記念式典・祝賀会であいさつを述べる西原町産業通り会の第七代会長・新川凌市氏(11/13、かねひで都パレス)。



記念式典では、初代から六代までの歴代会長や同通り会

に多大な貢献をした南西石油株式会社表彰されました。また、翁長正貞町長や富春治町議会議長、呉屋定子町商工会長(代読)ら来賓によるあいさつがありました。式典に

翁長町長が 12カ所の無認可保育施設を視察 ——児童福祉法制定50周年記念——

翁長正貞町長は、10月13日、町内の無認可保育施設12カ所を視察しました。

これは、児童福祉法制定50周年にちなみ町内の保育園の現状や課題等について把握しようとしたもので、町側が無認可保育園を一斉に視察したのは今回が初めて。

視察を受けた保育園側からは、陸上競技場や体育館などの町営施設使用の無料化や保育園の法人認可、園周辺の交通安全対策、補助金の増額などの要望が寄せられました。

これに対し、翁長町長は「改善できる範囲で努力していきたい」と回答し、理解を求めました。また、同行した福祉課職員から「来年から児童福祉法が改正され、無認可保育所も考慮されるようになるので、状況をみながら検討していきたい」と説明を受けました。

現在、町内に、無認可保育所は12カ所あり、約700人の園児が通園しています。町から無認可保育所に対して、本年度は、行事費や保母の健康診断料などに総額120万円、6カ所の無認可保育所で構成する町私立保育向上連絡協議会へ20万円の補助が予定されています。

先立ち、平良朝男沖縄大学教授を講師に、「沖縄経済の振興とFTZ(フリー・トレード・ゾーン)」と題する記念特別講演会も開催されました。式典に引き続き祝賀会も開催され、琉球舞踊や日本舞踊、民謡、剣舞など、さまざまな余興が披露され、同通り会の設立十五周年の節目を祝いました。また、喜納昌春県議会議員の祝辞や多数の祝電もありました。



△設立十五周年記念式典で行われた歴代会長らの表彰の模様。

△西原まつりで行った町人材育成会基金造成チャリティー抽選会の収益金を、町人材育成会へ寄付する町建設協力会のみなさん(11/7、町長室)。



町建設協力会が人材育成会に50万円を寄付

「町の人材育成に役立ててください」と、11月7日午前、町建設協力会(小波津健会長)が、町人材育成会(会長・翁長正貞町長)へ寄付金50万円を手渡しました。

これは、10月25日と26日の2日間にわたり開催された西原まつりで、同建設協力会が行った町人材育成会基金造成チャリティー抽選会の収益金。

小波津会長は寄付金の贈呈にあたり「“企業は人なり”という言葉のように、まちづくりも人づくりから。微力ながらも、本会が西原町に貢献できればと思います」と述べました。翁長町長は「多額の寄付を、ありがとうございます。人材育成会の資金助成も多方面に活用され、資金はいくらあっても足りないくらいです。町の今後を担う多様な人材の育成のため、ご芳志を有効に使わせていただきます」とお礼を述べました。



△新しい太鼓を使つての太鼓演奏を披露する、ひまわり祭り太鼓のみなさん(8/20、町中央公民館。「第3回町地域自治活動発表会」)

～ひまわり祭太鼓に新しい太鼓～

8月26日、県営西原団地ひまわり祭太鼓に(財)自治総合センターによる、平成9年度一般コミュニティ助成金250万円を活用した太鼓が整備されました。

太鼓の種類は、桶胴(おけどう)太鼓をはじめ附締(つけしめ)太鼓などを含めて10台になります。

ひまわり祭太鼓の実力は県内外において高く評価されていますが、太鼓等の器材が不充分であったために思うような活動ができませんでした。太鼓を手にしたメンバーはその音の良さに感激し、新曲づくりにとりくんでいるようです。

(財)自治総合センターは、宝くじの普及広報事業として、受け入れる宝くじ受託事業収入を財源に助成を行っています。宝くじの収益金は、明るく住み良い街づくりに利用されています。

まちの話題



△東部消防本部では住民への火災予防を訴え、街頭パレードを行った(11/10、与那原町)。

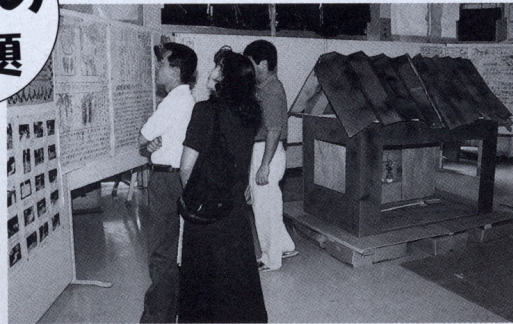
火災予防を訴え、街頭をパレード

西原町、与那原町、南風原町、佐敷町で構成する東部消防本部(大城吉雄消防長)では、秋の火災予防週間(11月9日から11月15日)にあわせて、11月10日午後、与那原町で住民防火パレードを行い、約180人が参加しました。

与那原町与那原のスーパーマーケット駐車場で行われた出発式で、大城消防長は、統一標語『つけた火はちゃんと消すまで あなたの火』を紹介し「防火は一人ひとりの意識が大切」とあいさつしました。

出発式の後、パトカーに先導され、ハシゴ消防車、与那原町の婦人消防隊や幼年消防クラブのみなさんが、横断幕や旗をもって、国道329号を知念高校までパレードし、ドライバーや通行人に防火を訴えました。また、西原高校マーチングバンドもパレードに参加、華麗な演奏を披露して、パレードに花を添えていました。

同消防本部によると、今年に入って、区域内の火災は9月末現在で、42件(前年比5件の減)となっています。



△字嘉手刈にある尚田王ゆかりの「内周御殿」など、沖縄や地域の文化を見つめる展示・発表が行われた、第三回西原東中学校の文化祭10/19、西原東中学校。

西原東中学校が第3回文化祭を開催

「わたしたち島沖縄ー感動、驚き、喜び、見つめてみよう沖縄の文化ー」をテーマに、10月19日、西原東中学校(伊禮青勝校長)で、第3回文化祭が開かれました。同校は、昭和63年4月5日に西原中学校から分離、開校し、今年で創立10周年を迎えました。平成9年5月1日現在、22学級で生徒数781人、職員数が45人。

文化祭は、体育館を会場とする「舞台の部」と各教室を利用した「展示の部」に分かれて行われ、どちらも文化祭のテーマに沿って、「沖縄」を見つめ、「沖縄」にこだわるものが発表されました。

「舞台の部」では、吹奏楽やなぎなた、琉球舞踊、空手、剣道、獅子舞、「わたしたちの沖縄ー平和への祈りー」と題した構成劇などさまざまな演目が披露されました。

「展示の部」では、沖縄のたべもの、琉球王朝文化、沖縄の特産物、伝統工芸、年中行事、名所など沖縄全体を対象としたものから、内間御殿など身近なものを素材にしたものなどが展示発表されていました。

はたがしら 旗頭と獅子舞が共演

第十一回 西原まつり



「さわやか ふれあい 夢あるまち」をテーマに、第十一回西原まつりが、十月二十五日、二十六日の二日間、同まつり実行委員会（委員長・翁長正貞町長）主催により、町商工会（呉屋定子会長）の商工パレードで幕を開け、町民陸上競技場を会場に盛大に行われました。西原まつりは、二十一世紀へ向かって羽ばたく本町の輝かしい将来を展望し、地域産業の育成、教育芸能文化の振興、福祉の向上、町民相互の融和とより一層の町民意識の高揚を目的に、隔年ごとに開催されています。

【一日目】

飾り立てた車と西原高校マーチングバンドによる「まつりパレード」で、町内にまつりの始まりを知らせ、中学生吹



△かわいらしい園児たちのエイサー。

奏楽や文化協会・洋楽部会のコーラスを交えて翁長正貞町長まつり実行委員長が「開祭宣言」。「子どもフェスティバル・パート1」では、町内の私立保育園で構成する町私立保育園上連絡協議会の園児たちによるエイサー、県営西原団地の子どもたちによるひまわり祭り太鼓の演奏、町子ども会育成連絡協議会による民踊、文化協会琉舞部会の各琉舞道場で習練を積む子どもたちによる琉舞が披露され、かわいらしくも大人顔負けの演奏・演技に、会場から盛んに拍手が送られていました。「苗木の無料配布」コーナーは、配布

の半時間前から長蛇の列が出来るほどの人気を集めていました。「マーチングフェスティバル」では、七月にオランダで開かれた音楽の五輪といわれる「第十三回世界音楽コンクール」に日本代表として出場、パレードとショーの二部門でそれぞれ金賞を受賞、もはや世界のトップといえる西原高校マーチングバンドが、華麗で力強い演奏と息のあった見事な動きで、観客をすっかり魅了していました。「ヤングフェスティバル」には、琉球大学や沖縄キリスト教短期大学の学生たちが踊りを披露し会場の雰囲気盛り上げ、



△苗木の無料配布コーナーは、大人気！

町建設協力会（小波津 健会長）主催による町人材育成会基金造成のための「チャリティー抽選会」、町文化協会民謡部会による「民謡ショー」、地域・職場から踊り自慢が参加した「カチャーシー大会」などさまざまな催しが行われ、会場の観客を大いに楽しませていました。

【二日目】

町商工会青年部による「球技大会」（スーパードリフトボール）、「子どもフェスティバル・パート2」では、町保育連絡協議会によるエイサー、文化協会日舞部会・琉舞部会・武術部会の子どもたちによる

かわいらしい日舞、琉舞、空手が披露され、会場の雰囲気と和ませていました。町老人クラブ連合会や町商工会による「集団演技」では、おしゃれをしたお年寄りたちによるフォークダンスや「西原町音頭」、「さわふじ音頭」などが披露されました。「カラオケ大会」には、のど自慢、スタイル自慢（？）が参加、プロ歌手よろしくアクションも交えて歌を競い合いました。「苗木の無料配布」コーナーは、前日同様人気も高く、配布後わずか三分で全部なくなるほどでした。前日に引き続いて行われた町人材育成会基金造成のための「チャリティー抽選会」は、次々出る当選者たちの笑顔に対し、抽選にもれた人たちは「ああー」という落胆の声を出しながらも、人材育成へ貢献しているという気持ちからか笑顔が印象的でした。「集団演技」では、子どもも育成連絡協議会の子どもたちと町婦人連合会が、それぞれ元氣よくエイサーを演舞しました。「伝統芸能と旗頭共演」は、まつりのメイン

ともいえるもので、ステージで文化協会・古典音楽部会・太鼓部会・琉球箏部会による厳かな古典演奏のあと、翁長・小橋川がそれぞれの地域に伝わる特色ある獅子舞を披露、また、西原台団地の新しい獅子のお披露目も兼ねた獅子舞も行われ、西原の伝統芸能の奥深さと芸能文化の素晴らしさを町民にアピールしました。引き続き、広場では、棚原・小波津・小那覇・嘉手苅・我謝・坂田といった町内各地の旗頭とゲスト出演の那覇市首里山川の旗頭が入場し、それぞれが旗頭のガイー(旗手が一人で旗頭を持ち上げ、力と勢いを競い、粋を争う)を行いました。その後、花火を合図に参加した全ての旗頭が広場狭しと乱舞、獅子舞や観客が入り乱れて、まつりは最高潮となりました。

まつりの締めくくりは、夜空に大輪の花咲く「花火ショー」。夜空を彩る鮮やかな模様に、観客も我を忘れて見入っていました。



△旗頭、観客が入り乱れて、まつりは最高潮に。

西原まつりフォロ



△「あれも食べたい、これもほしいな」

△ゲーム「いろいろな棒」に挑戦(出店コーナー)



△「エイヤー！」子どもたちの勇ましい空手



△照れながらもフォークダンスを楽しむお年寄りたち



△嘉手納町から総管太鼓も参加して、ひまわり太鼓と共演



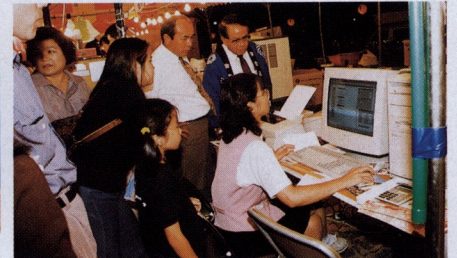
△人材チャリティー抽選会で特等を射止め、おめでとう！



△カラオケ大会も子どもからお年寄りまで参加して盛り上がった



△町婦人会も、見事なエイサーを披露した。



△パソコンを使つてのデモンストラーションを行う企業も。



△沖縄の伝統を受け継ぐ子どもたちの踊り。



△一般も飛び入りして「さわふじ音頭」等を踊った。



△小橋川の獅子



△西原台団地の獅子



△翁長の獅子



△幸地子ども会の旗頭



△小波津の棒術



旗頭だけでなく、モーイ(舞い)や応援でも競演!



△棚原

△我謝



△棚原の旗頭



△我謝の旗頭



△ゲスト出演の首里山川の旗頭



△坂田の旗頭

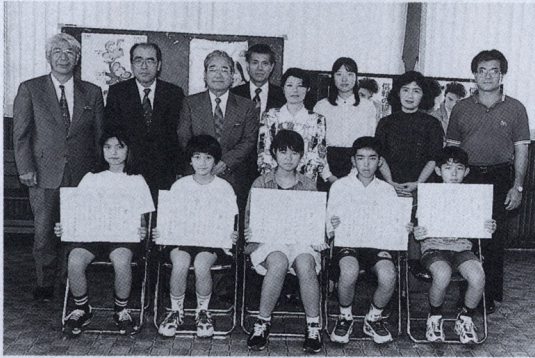


△嘉手刈の旗頭



△小波津の旗頭

「税を知る週間」で さまざまな催し



△「税を知る週間」にちなみ、さまざまな催しが行われた(11/12、町役場2階会議室。小学生の「税に関する書道」の入賞者表彰式後の記念撮影)

北那覇税務署(山内昌師署長)では、「税を知る週間」(11月11日～17日)にちなみ、11月11日午後、浦添市役所ロビーで、「税を知る週間」オープニングセレモニーを行ないました。

セレモニーでは、一日税務署長の仲宗根沢音さん(港川中学3年)や山内北那覇税務署長、宮城健一浦添市長、宮里 繁北那覇税務団体協議会会長らがあいさつした後、翁長正貞町長も参加してテープカットを行いました。引き続き、参加した関係者らは、同市役所ロビー内を利用した税金展を見学しました。

なお、同週間中、西原町でも町役場ロビーを利用したミニ税金展を開催し、ビールやタバコといった嗜好品に占める税金の割合、町税の使われ方といった税金に関するグラフや表、実物見本などが展示されました。

また、11月12日午後には、町役場2階会議室で、小学生の「税に関する書道」入賞者の表彰式が行われ、入賞した児童5人に対し、それぞれに表彰状が手渡されました。翁長正貞町長は税の種類や使い道などをひとくさり述べた後「友だちにも、ぜひ税金の重要性を教えてください」と述べました。島田賢松教育長も租税教育推進協議会について述べ、書道や作文・標語などのコンクール開催により税への認識を高める大切さを訴えました。

なお、「税に関する書道」入賞者は次の通り(敬称略)。

【西原町長賞】野辺将志(西原小学校) 【西原町教育長賞】呉屋 絵理子(西原東小学校) 【西原町教育委員長賞】伊芸倫子(西原小学校) 【北那覇税務署長賞】神谷龍太(西原南小学校) 【県税事務所長賞】高良吉野(坂田小学校)

第18回童話・お話し 意見発表会を開催



△平成9年度西原町童話・お話し大会のよう
(11/4、坂田小学校体育館)

町PTA連合会(赤嶺秀政会長)主催による第18回小学生童話・お話し大会と第18回中学生意見発表大会が、10月21日午後、それぞれ坂田小学校体育館と西原中学校体育館で開催されました。

同大会は、話しや意見発表をすることで、児童生徒の表現力を高め、情操を磨き、言語を豊かにしようと毎年開かれているもの。町内から小学校の部に16人、中学校の部に8人が参加し、最優秀賞受賞者(小学生は4人、中学生は2人)は、11月15日に開かれた中頭地区大会へ町代表として派遣されました。

大会に参加した児童生徒は、ほかの児童生徒や学校長、審査員をつとめるPTA役員らが見つめる中、身振りや手振りを交えて堂々と、お話しや意見発表をしていました。

なお、町代表となった児童生徒は次の通り(敬称略)。

【小学校】《低学年の部》女子・仲宗根 馨(西原南小学校3年)、男子・玉那覇 功(西原小学校3年)《高学年の部》女子・玉城有理(西原小学校6年)、男子・小波津龍平(西原南小学校4年) 【中学校】女子・金城都(西原中学校2年)、男子・狩又行也(西原中学校3年)

※小波津龍平君と金城 都さんは、それぞれ中頭地区代表となり、11月29日の県大会に出場しました。

県身体障害者スポーツ 大会で活躍



△町代表として、県身体障害者スポーツ大会の各種目で活躍した選手のみなさん(9/21、那覇市奥武山陸上競技場)

第33回県身体障害者スポーツ大会が、9月21日、那覇市奥武山陸上競技場ほか3会場で、県内各地から約700人が参加して行われました。西原町からの代表選手17人は、陸上競技など各種目に力を発揮、金メダル7個、銀メダル3個、銅メダル1個の見事な成績をおさめました。

このスポーツ大会は、陸上競技のほか、水泳、アーチェリー、卓球、車椅子バスケットボール、グラウンドソフトボール、バレーボール等の種目があり、町身体障害者協会(☎945-3651、町社会福祉協議会内)では、来年度に向けて、会員募集の呼びかけをするともに、今年以上に多くの参加者の活躍を期待しているとのことでした。

また、町では現在、本町における障害者福祉施策の基本となる障害者計画を策定中です。町民の皆さんの同計画に関するご意見等がありましたら、福祉課までご連絡下さい(☎945-5311)。

なお、県スポーツ大会参加者名と結果は次の通り(敬称略)。
▽糸数ノリ子(やり投げ、金)▽奥原陽子(砲丸投げ、金)▽仲宗根輝政(ソフトボール投げ、4位)▽宮平助徳(卓球、3位)▽崎原盛男(100メートル走、銀)▽喜屋武良春(ソフトボール投げ、5位)▽玉那覇俊雄(砲丸投げ、銀)▽玉城康雄(立ち幅跳び、金)▽新垣 学(ソフトボール投げ、4位)▽上里一之(車椅子スラローム、2位)▽金城利信(立ち幅跳び、金)▽小波津正芳(ハンドボール投げ、金)▽外間恵姿(砲丸投げ、5位)▽島袋栄治(ハンドボール投げ、5位)▽祝嶺由紀子(砲丸投げ、金)▽与那嶺和成(1500メートル走、金)▽津波古やよい(ソフトボール投げ、銀)



△自らの体験に基づいての意見発表も行われた(11/9、町中央公民館ホール、第11回町社会福祉大会から)

地域住民が参加して

公私協働の福祉のまちづくりを

—— 第十一回 西原町社会福祉大会 ——

「思いやりといったわりの心で支え合えるやさしい町にしよう」、「誰でも必要なサービスを受けることができる社会を実現しよう」の二つをスローガンに、町社会福祉協議会(宮平吉太郎会長)主催による第十一回西原町社会福祉大会が、十一月九日午後、町中央公民館ホールで、福祉行政関係者や町民ら四百余人余が参加して盛大に開催されました。

今大会は、同社会福祉協議会が平成八年度に策定した『地域福祉活動計画』の実施を、本町の社会福祉関係機関、団体の積極的な連携協力を深め、町民総参加の福祉活動を推進しようとして開かれたもの。

大会では、社会福祉功労者・団体の表彰、意見・体験発表、スローガン達成に向けての大会宣言などが行われました。

意見・体験発表では、国吉菜美さん(坂田小学校六年)、渡口由希子さん(西原東中学校三年)、西江奈理子さん(西原高等学校三年)、又吉京子さん(一般)、山田親幸さん(一般)が、それぞれ自らの体験に基づき意見などを発表しました。

意見・体験発表に先立ち、「街で障害のある人に出会ったら」と題する短編映画も上映され、参加者たちは障害をもつ人々の手助けの基本を学びました。また、今回初めて四人の要約筆記ボランティア



△会場には大勢の参加者がつめかけた(11/9、町中央公民館ホール、第11回町社会福祉大会から)

が配置され、司会者や意見発表者らの発言内容を簡潔に文字化して会場の参加者に紹介しました。

大会宣言後に行われたアトラクションでは、知的障害者の作業所である「はばたき共同作業所」のみなさんによるパーランクーや西原・西原東両児童館の子どもたちによる手話ソング、事故により首から下が麻痺という障害を持ちながら本の執筆や講演などに活躍する上里一之さんのハーマニカ演奏などが披露され、大会に花を添えていました。

なお、被表彰者は次の通り(敬称略)。

【表彰】《個人・十三人》▽花城朝勇▽宮城邦子▽久手堅愛子▽野国洋子▽奥原陽子▽上里一之▽佐久川松枝▽仲宗根史子▽屋宜トヨ子▽又吉ユキ子▽新城艶子▽澤岬トミ子▽宮城ヒデ《団体・一団体》▽沖縄キリスト教短期大学《学長・原喜美》【感謝】《個人・九人》▽玉那覇俊子▽仲地秀▽佐久川ウシ▽喜屋武有栄▽与那城ツル▽呉屋吉子▽大城純義▽小波津裕光▽小那覇義光《団体・十団体》▽金秀グループ《会長・呉屋秀信》▽テクノバードジャパン《株》(代表者・根間盛幸)▽西原町商工会《会長・呉屋定子》▽(株)沖縄フジカラー・沖縄富士フィルム販売《株》(代表取締役・護得久朝正)▽七福神坂田店《店長・糸数健》・カラオケボーイ《店長・嘉数昇》▽上江洲彦一民謡研究会《師範・上江洲彦一》▽沖縄なつめる同好会《会長・仲里富和》▽高齢者住宅サンセル池田《代表者・町田浩二》▽サンライズ農業協同組合《組合長・喜納宏》▽西原町ゲートボール連合会《会長・与那嶺誠二》

▷戦没者の御霊を慰め、不戦の決意と平和への誓いを新たにする参列者たち (10/31、西原の塔)。



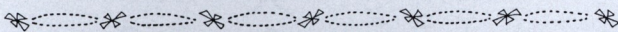
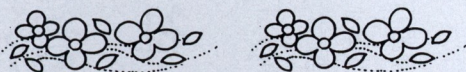
戦没者をしのび、平和を願う

— 平成 9 年西原町戦没者追悼式 —

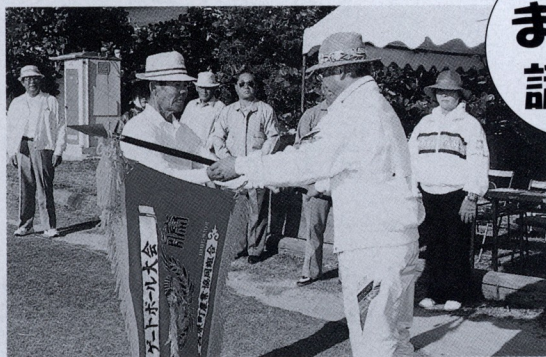
10月31日午後、字翁長の「西原の塔」で、平成 9 年町戦没者追悼式が、町内、県内外から遺族や関係者約 250 人が参列し、しめやかに執り行われました。

参列者は、一人ひとり焼香をあげて御霊を慰め、不戦の決意と平和への誓いを新たにしていました。

追悼式では、翁長正貞町長や翁長正昌町遺族会会長、富春治町議会議長ら関係団体代表者があいさつし、沖縄戦をはじめとする戦争の教訓を正しく後世に伝え、恒久平和を願うまちづくりをすすめていくことを霊前に誓いました。



▷JAサンライズ西原から町ゲートボール連合会へ、旧農協時代の優勝旗が贈られた (11/8、兼久ゲートボール場)。



優勝旗をめぐり第 1 回大会

町ゲートボール連合会 (与那嶺誠二会長) は、11月 8 日、兼久ゲートボール場で、第 1 回西原農協優勝旗大会を開催しました。

これは、農業関係組織の強化を図ろうと、平成 6 年 4 月 1 日に、JA西原町、JA中城村、JA北中城村の広域合併して発足したJAサンライズの誕生により不用となっていた「西原町農協主催ゲートボール大会優勝旗」を活用していただき、JAサンライズ西原から町ゲートボール連合会へ優勝旗が寄贈されたもの。23チームが参加して、初代の栄冠を競い合いました。

大会に先立ち、JAサンライズ西原から町ゲートボール連合会への優勝旗贈呈式が行われ、翁長正吉JAサンライズ農協専務理事が「今大会の開催により、優勝旗が活用され、とてもうれしい。今後も地域の農協として職員ともども頑張っていきたい」とあいさつしました。

今回は第 1 回大会ということで、JA側から 1 位～4 位までに賞品、ゲートボール連合会からは参加者全員に参加賞がありました。

町ゲートボール連合会では、優勝旗は優勝チームの持ち回りにして、毎年 11 月の第 2 土曜日にこの大会を開催する予定です。

▷町ゲートボール連合会とゲートボールで親善交流のため来町したブラジル県人会のみなさんと翁長町長ら関係者 (10/20、兼久ゲートボール場)。



ブラジル県人会和町ゲートボール連合会が親善交流大会

町ゲートボール連合会 (与那嶺誠二会長) は、10月 20 日、兼久ゲートボール場で、沖縄を訪れているブラジル県人会のメンバーと、親善ゲートボール大会を開催し交流しました。ブラジル県人会のメンバーは、同会の第 1 書記をつとめ同地で旅行会社を営む宮城調智さん (国頭出身) のツアーで来沖、訪れた 15 名中 9 名が本町関係者ということで、今回の交流となりました。

今回来町した本町関係者は、小波津千代子さん、川上恵美子さん、比嘉トヨ子さん、小波津正吉さんの 4 人。千代子さん、恵美子さん、トヨさんは姉妹で (旧姓は中谷)、嘉手苺の出身。小波津正吉さんは、父親が小波津出身の 2 世で、千代子さんとは夫婦です。トヨさんは、中城村出身の県系 2 世を夫とし、アルゼンチンに在住していますが、今回姉妹がそろうので自分もと、ただひとりアルゼンチンから参加しました。

交流大会の開催をきいて、翁長正貞町長と呉屋定子町商工会長も急きょ駆けつけ、それぞれデイゴと守礼の門がデザインされた飾り盆とさわふじのプリントされたティーシャツを、県人会メンバーへプレゼントしました。

参加者の中には旧知のものもいて、和気あいあいとゲートボールを楽しんでいました。

まちの話題



◁町民の会から贈られたサワフジを植樹する嘉手苺自治会のみなさん (10/19、内間御殿前)。

町民の会が嘉手苺自治会にサワフジ 7 本を寄贈

「地域の活性化に役立ててください」と、10月 19 日午前、西原まちづくり町民の会 (新川康之会長) から、嘉手苺自治会 (呉屋 實自治会長) に対し、さわふじ (サガリバナ) の木 7 本が贈呈されました。

嘉手苺自治会では、ほかの周辺自治会や町商工会や通り会などと協力して、琉球王国時代の第 2 尚氏始祖である尚円王が即位前に住んでいたといわれる内間御殿による地域おこしを図ろうと、御殿内にある「さわふじ」を活かしたサワフジ祭りなどに取り組んでいます。

新川会長は「サワフジによる地域おこしに取り組んでいる嘉手苺自治会に、何か協力できないかと木の寄贈を企画しました」とあいさつし、呉屋自治会長は「地域おこしとして、尚円王ゆかりの内間御殿にちなんだサワフジ祭りに取り組んでいるおり、このような寄贈はありがたい」と、お礼を述べました。

この日は、ちょうど自治会の共同清掃作業日ということもあって、「いずれは内間御殿の公園化で町の文化財、観光資源として地域住民をはじめ、県民の財産として親しまれるようになれば」と、参加した地域住民も加わり、サワフジの贈呈をよろこんでいました。

12月14日 (日)

バードウォッチング

(9:00~17:00、中北部。定員 40 人。申し込み、問い合わせ/町教育委員会生涯学習課 ☎945-3655 平良)



△子どもたちのエイサーや旗頭など、子どもをメインに多彩な催しでにぎわった第3回平園まつり(10/18、九区児童公園)

にぎわった第3回平園まつり

平園自治会(与古田光助自治会長)は、10月18日午後、平園児童公園で、第3回平園まつりを開催し、大勢の地域住民でにぎわいました。

平園は、平成3年4月1日に施行された新行政区改編により誕生した行政区で、平成5年に第1回のまつりを開催して以来、隔年ごとにまつりを開いています。

今回は、子供会のエイサーや空手演武、小中学生の元気な旗頭のガーエー、老人会や婦人会による民踊、個人で日舞や剣舞を披露する人、カラオケ大会など多彩な催しで大いに盛り上がりました。

また、歌手の城 明さんが友情参加してまつりの盛り上げにひと役かっていました。

町シルバー人材センターが奉仕活動

高齢者自らの社会参加で生きがいと地域づくりをと、町シルバー人材センター(新垣民雄理事長、会員171人)は、11月16日、「西原の塔」を清掃しました。

これは、11月がシルバー人材センター活動月間ということで全国で活動が取り組まれており、町センターでもセンターのアピールと何か地域に貢献できないかと企画されたもので、このような取り組みは、同センター設立以来初めて。10月最後の金曜日に町戦没者追悼式が行われることから、会場となる『西原の塔』の清掃をするようになりました。

この日は、同センターの会員約30人が、鎌や草刈り機を手し、雑草の刈り取りやごみ拾いを行いました。



△「シルバー人材センター活動月間(11月)」にちなみ、西原の塔を清掃する町シルバー人材センターのみなさん(11/16、西原の塔)

まちの話題



△第3回幼児クラブ・あゆみ合同運動会の「玉入れ」競技(10/15、町民体育館)

児童館の幼児クラブと通園事業「あゆみ」が運動会

— 第3回幼児クラブ・あゆみ合同運動会 —

西原・西原東児童館の幼児クラブのメンバーと心身障害児通園事業「あゆみ」のメンバーが、10月15日午前、町民体育館で運動会を行い、仲良く交流しました。

運動会では、かけっこや玉入れなどのほか体操や親子での大玉ころがし、障害物競争、保護者による綱引きなどさまざまな競技が行われました。

金秀グループが創立50周年記念で植樹

金秀グループ(呉屋秀信会長)は、今年が創立50周年にあたることから、11月12日午前、西原運動公園内で記念の植樹を行い、本町に贈呈しました。

植樹式には呉屋会長をはじめとする金秀グループや町役場から関係者ら約30人が参加しました。

植樹場所は、陸上競技場へ向かう途中にある交流広場の駐車場側。250平方メートルほどの広さに、琉球黒檀3本、サガリバナ3本、徳利木綿1本、ゴールデンシャワー1本、景色のアクセントと実際に椅子としても座れる機能を持つ景石を5基、高麗芝など総額300万円相当を植栽しました。



△創立50周年記念にと金秀グループから贈られた樹木を植樹する翁長正貞町長(左)と呉屋秀信金秀グループ会長(右)(11/12、西原運動公園内)

「第49回 人権週間」!! (12/4～12/10)

「世界人権宣言」は、1948年(昭和23年)12月10日に国際連合で採択されました。これを記念して国際連合は12月10日を「人権デー」と定め、すべての加盟国に対し、人権思想の啓発のための行事を毎年実施するように要請しています。

法務省と全国人権擁護委員連合会では、世界人権宣言採択の日を最終日とする1週間、12月4日から10日までを「人権週間」として広く国民に呼びかけ、人権意識の普及高揚を図っています。

県下においても那覇地方法務局と沖縄県人権擁護委員連合会が中心となり、各地で街頭パレード・特設人権相談所の開設・講演会・座談会等の開催を計画しております。

今回の人権週間の強調事項は、

- 子どもの人権を守ろうー育てよう思いやりの心ー
- 国際化時代にふさわしい人権意識を育てよう
- 部落差別をなくそう
- 女性の地位を高めよう
- 障害者の完全参加と平等を実現しよう
- 高齢者を大切にすることを育てよう

となっています。

なかでも、いじめ、体罰、不登校児など子どもをめぐる人権問題が大きな社会問題となっていますが、次代を担う子どもの人権を積極的に擁護することが必要です。

人権週間を迎えるに当たって、もう一度憲法に定める基本的人権の精神を十分かみしめて、これを社会に反映していきたいものです。

この機会に人権擁護機関のご紹介をします。

人権問題の解決のため、法務局の人権擁護課及びその支局並びに各市町村長から推薦され法務大臣が委嘱した人権擁護委員が、地域社会の気軽に相談できる機関として配置されています。

相談は無料で、秘密を守り、手続きはいりません。

当町には、次の方々が人権擁護委員として活動されております。

職名	氏 名	住 所 及 び 電 話 番 号
委員	下地 郁子	西原町字呉屋94番地の2 098-945-1349
委員	外間 政弘	西原町字嘉手苅86番地の2 098-945-0919
委員	新垣 佳宏	西原町字与那城265番地の2 098-945-2774
係長	呉屋 敏浩	西原町字我謝41番地 098-945-9674

那覇地方法務局(人権擁護課)

○所在地 沖縄県那覇市樋川1丁目15番15号
 ○電話番号 098-854-7950
 F A X 835-4038

お知らせ
でーびる

案内・募集

12月

【西原町役場】

総務課 ☎945-5011
 選挙管理委員会 //
 文化広報課 ☎946-9846
 福祉課 ☎945-5311
 町民課 ☎945-5012
 出納室 ☎945-5193
 税務課 ☎945-4729
 国民健康保健課 ☎945-4791
 保健衛生課 ☎945-5013
 企画財政課 ☎945-4533
 議会事務局 ☎945-5005
 土木課 ☎945-4415
 都市計画課 ☎945-4496
 区画整理課 ☎946-9060
 産業課 ☎945-4540
 農業委員会 ☎945-5281
 水道課 ☎945-4934

【西原町教育委員会】

教育総務課 ☎945-3655
 生涯学習課 //
 学校教育課 //
 教育相談課 ☎945-3656
 町民体育館 ☎945-8095
 町民陸上競技場 ☎944-1146
 町中央公民館 ☎945-3657
 ☎945-9208
 学校給食共同調理場 ☎945-4935
 西原児童館 ☎945-4393
 西原東児童館 ☎944-0976

平成10年1月下旬から放送大学全国放送開始

《平成10年1月下旬から、CSデジタル放送(パーフェクトTV!申請中)を利用して全国放送を開始します。(自宅での放送授業視聴による学習が可能になります。))》

放送大学(教養学部)平成10年度第1学期 (4月授業開始)学生募集

【募集学生】選科履修生(1年間在学する学生)

科目履修生(1学期間「6か月」在学する学生)

【出願受付】平成9年12月15日(月)～平成10年2月15日(日)

【資料請求・お問い合わせ】

放送大学沖縄地域学習センター

〒903-0215 西原町字千原1番地(琉球大学附属図書館1階) ☎ 098-895-5953

放送大学ホームページ <http://www.u-air.ac.jp/hp>

FAX情報サービス 043(211)8351

贈答品等のおことわり

(ご理解とご協力をお願いいたします)

町民・事業者等各位
 町ではこれまで、町及び町職員へのお土産・お中元・お歳暮等の贈答は、一切で遠慮させて頂いておりましたが、一切で遠慮させて頂いておりましたが、各位の理解とご協力をお願い申し上げます。また、新年の慶賀につきましましては、賀状を廃止し、「広報にしはら」及び新聞紙上でお願い致します。平成九年十二月一日

西原町長 翁 長 正 貞

広報係から

『中学生・高校生のための海外派遣事業』参加者募集

海外での学校体験とホームステイを通して、国際性を培ってもらうと、文部省所管の財団法人国際青少年研修協会は、「中学生・高校生のための海外派遣事業」の参加者を募集している。派遣先は、アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ニュージーランド。期間は、平成十年三月二十二日(日)から四月四日(土)の二週間。参加費は三十六万五千円から三十八万円。申込みは、平成十年一月二十七日(火)まで。問い合わせ・資料請求は、財団法人国際青少年研修協会(〒160 東京都新宿区四谷二の十一 大村ビル三階) ☎03-3359-1842

西原町 成人式

開催日時: 平成10年1月15日

午後1時30分～

2時(受付)

午後2時～4時

場 所: 西原町民体育館

問い合わせ: 西原町教育委員会

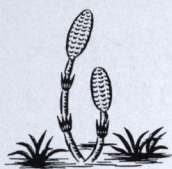
☎ 945-3655

平成10年1月4日(日)新春かきぞめ大会

(午前9時～12時、町民体育館。参加希望者は直接会場へ。 町教育委員会 ☎945-3655)

て運持忙とい国の手絡れ忙
 の転しる民人元をそ十二
 中ないのがにとのかをい月
 のはいた約ありだ時期は
 だやもはわ六るた一「師
 ねめの思れる人す携い走
 “てのえな携一電急な用
 下がいと増話と事うぐ
 すいみと話でつ時間い
 ヨ。?と話をつづぐとい
 命でもはと
 あも、っ

薬草教室 受講生募集!!



沖縄県は薬草の宝庫と言われるほどたくさんの薬草があり、現在『日本一の長寿県』であるのも古くより生活の中で活用してきたからだと思います。しかし皆さんの身近には、まだ気づかれていない薬草やその利用法がたくさんあります。そこで、西原町ではそうした身近にある薬草を使った『薬草教室』を開講します。

※受講希望者は、下記まで申し込んでください。

日 時：平成10年1月19日(月)～2月16日(月)
午前10時～12時(最終日は10時～13時)

場 所：西原中央公民館(調理実習室)

講 師：薬剤師 吉川敏男
沖縄健康管理センター所長
沖縄薬用資源研究所所長

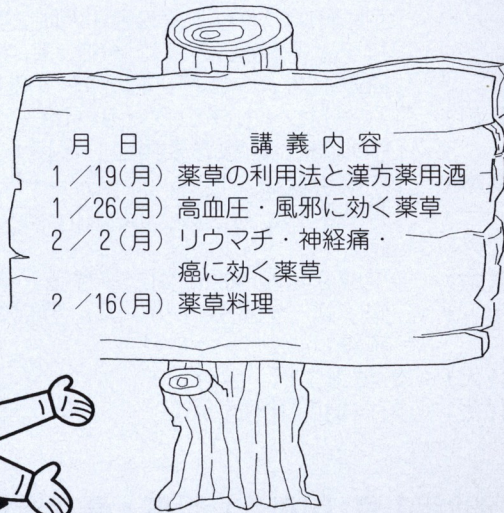
受講料：無料

申込期間：平成9年12月17日(水)～19日(金)

申込先：西原町役場国民健康保険課
☎945-4791(内線154)

定 員：40名

※申し込み者多数の場合は、前年度の教室を受講していない方を優先した上で抽選といたしますのでご了承ください。



月日	講義内容
1/19(月)	薬草の利用法と漢方薬用酒
1/26(月)	高血圧・風邪に効く薬草
2/2(月)	リウマチ・神経痛・癌に効く薬草
2/16(月)	薬草料理

農業委員会委員選挙人名簿の登載を申請しましょう。

申請期限：平成10年1月10日

申請場所：西原町農業委員会事務局

申請できる人：平成10年1月1日現在、町内に住所を有し、年齢が満20才以上の者で10アール(約303坪)以上の農地につき耕作の業務を営む者か、その者の同居の親族又はその配偶者で1年間に60日以上耕作に従事した者
※ヤミ小作(農業委員会の許可を受けないで地主と耕作者が賃貸借等をしている小作人)は耕作の業務を営む農地に含まれません。

※詳しくは町農業委員会事務局(☎945-5281)、又は町選挙管理委員会(☎945-5011)へお問い合わせ下さい。

平成9年度第1回保留地処分の公開抽選について 保留地処分(土地売却)のお知らせ!

那覇広域都市計画事業上原棚原土地地区画整理事業の平成9年度第1回保留地処分の公開抽選を平成9年12月20日(土)、午後7時から西原町役場2階大会議室で行います。抽選参加申込受付期間は、平成9年12月8日(月)から平成9年12月18日(木)迄です。(詳細は別途配布のチラシをご覧ください。)

※お問い合わせ先 区画整理課(☎946-9050)

西原町母子保健連絡協議会 委員の募集について

本町では、すべての子どもが健やかに育ち、また保護者が安心して楽しく子育てのできる町づくりを目指して、「西原町母子保健計画」を策定し各種保健事業を推進しているところです。

今回、母子保健計画を見直し、一層の充実・強化を図るため、「西原町母子保健連絡協議会」を発足致します。

そこで、本町の母子保健に関心のある一般住民を対象に下記のとおり、「西原町母子保健連絡協議会」委員を募集します。

記

募集人員：2名

応募方法：所定の応募用紙に記入の上、保健衛生課に提出(郵送可)して下さい。

※応募用紙は保健衛生課にて配布。

※応募多数の場合は書類選考とします。

募集締切：平成9年12月25日(木)

決定通知：厳選なる審査の上、本人に通知致します。

連絡先：西原町役場保健衛生課

☎(098)945-5013(内線164)

～ 税 務 署 から の お 知 ら せ ～

所 得 税

事業税 住民税

3/16(月)まで

申告と納税は、正しく、お早めに。

確 定 申 告

申告書はご自分で作成し郵送で!

消 費 税

地方消費税

3/31(火)まで

家屋を撤去した場合は届け出を!

(西原町役場税務課家屋係まで。☎945-4729 内線143)

12 月 (DEC.) 行事・祭事予定表

- 11日(木) ○琉球舞踊鑑賞会 (15:00、西原小学校体育館)
○3 歳児健診 (H 6. 8. 8~H 6. 9. 11 生まれ、13:30~14:15、町社会福祉センター)
○西原町人づくり支援の会「大城久美子チャリティー絵画展」(12:00、町中央公民館ホール、~14日(日) 11:00まで)
- 14日(日) ○バードウォッチング (9:00~17:00、中北部。園 教育委員会・平良)
- 18日(木) ○1 歳半健診 (H 8. 5. 17~H 8. 6. 17 生まれ、13:30~14:15、町中央公民館)
- 19日(金) ○平成 9 年度西原町南米移住者子弟研修生修了式・送別会 (18:00、西原共同福祉施設)
- 23日(火) ○天皇誕生日 (公休日)
- 26日(金) ○町役場御用納め

1998 年 1 月 (JAN.) 行事・祭事予定表

- 4日(日) ○新春書き初め大会 (9:00~12:00、町民体育館)
- 5日(月) ○御用始め
- 7日(水) ○ツベルクリン反応 (3 カ月~47 カ月児、9:30~10:15、町中央公民館)
- 8日(木) ○3 歳児健診 (H 6. 9. 12~H 6. 10. 8 生まれ、13:30~14:15、町社会福祉センター)
- 9日(金) ○BCG (ツ反応陰性者、9:30~10:15、町中央公民館)

ガイドヘルパー養成研修の
参加者募集について

目の不自由な方が公的機関に外出する際の付き添い等を行うガイドヘルパーの養成研修の参加者を募集します。

日 時：平成 9 年 12 月 17 日 (水) 午後 2 時

場 所：西原町社会福祉センター研修室

募集期間：平成 9 年 12 月 1 日(月)~12 月 10 日(水)

※参加希望又はお問い合わせは

西原町役場福祉課まで ☎945-5311 (内線121)

※受講費は無料



▽字棚原七百七十七番地の二、仲地秀さんが、カジマヤー祝を記念して町社会福祉協議会へ十万円。

▽那覇市字大道十六番地、仲宗根英幸さんが、故父英輝さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ二十万円。

▽ブラジル県人会の小波津千代子さんが、西原東児童館へ十万円。

県外にお住まいの
阪神・淡路大震災の被災者の皆様へ
—— 兵庫県からのお知らせ

★情報紙「ひょうご便り」を希望者に送付しています。行政情報や被災地の状況を掲載した情報紙「ひょうご便り」を無料で送付しております。送付を希望される方は、下記フリーダイヤルにお電話いただくか、はがきに「ひょうご便り」送付希望と明記のうえ、①住所、②氏名、③電話番号及び④被災時の居住地を記入して、お申込みください。

申込先：兵庫県生活復興推進課

〒650 神戸市中央区下山手通 5-10-1

★兵庫県震災復興総合相談センターでは、県外にお住まいの被災者の皆様のためにフリーダイヤル(☎0120-78-4133)を設け、無料電話相談を行っています。ご活用ください。

財形教育融資制度のご案内

財形教育融資は、財形貯蓄(一般財形、財形年金、財形住宅)の還元措置として、財形貯蓄を行っている勤労者またはその親族が、高校・短大・大学等に進学する費用または、在学中に必要な費用(入学金、授業料、下宿代等)について当団が融資する公的融資です。

問い合わせ先：

雇用促進事業団 沖縄雇用促進センター

雇用改善部門 山城・比嘉

☎ 098-862-3214 FAX 098-861-3380

平成10年度国立沖縄海員学校の
生徒募集を次のとおり行います。

1. 募集定員 本科40名(就業年限3カ年)
2. 受験資格 平成10年4月1日現在で、満15才以上19才未満の者。
中学校卒業者(卒業見込みの者を含む)
3. 願書受付 ◆平成10年1月12月~2月9日
4. 試験科目 ◆国語・数学・英語
5. 試験日 ◆2月15日(日)
6. 試験地 沖縄県：石川市、那覇市、名護市、平良市、石垣市

鹿児島県：名瀬市

- 取得資格 4級小型船舶操縦士(国)、ガス溶接技能講習修了証(国)、4級海技士(航海・機関)(国)筆記免除

※詳細については、

沖縄海員学校教務課 ☎ 098(964)3595・098(964)2595
にお問い合わせ下さい。

寄付・香典返し

(ありがとうございました)

▽字内間三十九番地、大城純義さんが、母カマさんのカジマヤー祝を記念して町社会福祉協議会へ十万円。

▽字幸地一〇一四番地、合名会社三好運輸が、一般寄付として町社会福祉協議会へ一万二千八百円。

▽中城村字北浜九十番地、比嘉スエ子さんが、故父良一さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ五万円。

▽字棚原七百七十七番地の二、仲地秀さんが、カジマヤー祝を記念して町社会福祉協議会へ十万円。

▽那覇市字大道十六番地、仲宗根英幸さんが、故父英輝さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ二十万円。

▽ブラジル県人会の小波津千代子さんが、西原東児童館へ十万円。

わたしたちは、つねに学び、文化の高いまちをつくりましょう。(町民憲章)